



於：平成31年2月7日（木）午前10時～11時半 四日市市立図書館 2階視聴覚ホール

絵本の好きな人が集まり、絵本について気軽に話をしよう！と行っている「おしゃべりえほんの会」。今回は、毎年恒例、「**新刊絵本を読む**」でした。

この一年間に図書館に入った絵本の中から、さらに司書が厳選した本、約75冊を、ずらりと並べます。あとは、心ゆくまで読むだけ！まだまだ知名度が低い新刊は、わたしが最初に目をつけた！と言いたくなる、宝の山。さあ、面白いのはどの本だ！とばかりに、参加者は夢中で絵本を読みふけりました。

今回は、ボランティアで読みきかせをしている人あり、趣味が絵本、の人あり、子どもに読んでいる真っ最中の人ありと、いろんな立場の人々でしたが、普段の絵本に対する接し方が違うと、手を取る絵本も違って来るようです。

ボランティアをしている人は、まずは「この本は、幼稚園や小学校の子どもたちの前で読んで面白いか」「意味が分かるか」という視点で選び、家で子どもと読む、あるいは、絵本が好きで自分で楽しんでいるというような人は、子どもや自分が、その絵本に惹かれるかどうか、好きか好きでないか、が基準になっているように思いました。

『ナージャと5つの学校』という本は、ロシアの女の子が5つの国の小学校の様子を紹介する本ですが、イラストで細かく説明してあり、大勢の前での「読みきかせ」をやるににくい本。でも、子どもに読んでやる、と思うと、

「図鑑なんかで見るよりも、この絵を見た方が子どもにはわかりやすいんじゃないかな」という意見。

どちらが正解か、ということではなく、自分で意識していなかった基準に気づき、違う見方も発見できたということに、嬉しさを感じました。

ちなみに、司書がついおすすめしたくなる絵本の基準はただ一つ、「私は、これが好き！」です。



全部読みきれるかな？



## 今回注目を集めた新刊絵本

2018年度 2018年2月ごろ～2019年1月ごろまでに図書館に入った新刊の中から用意した75冊のうち、参加者の話題に上った絵本をあげました。

※新刊絵本については、2019年3月発行の「じどうしつだより」でも紹介しています。

### ★人文・科学系の本・絵本

『オレはどうくつ探検家』のどうくつ探検の写真はワクワクします。『にゅうどうぐも』『昆虫の体重測定』は、どちらも、かがくのとも絵本。夏を感じる絵でかかれたにゅうどうぐもや、昆虫の体重を身近なもの比べる過程を楽しめます。『きりみ』『クレヨンで描いた・・・』は、どちらも魚がものすごくおいしそう！

『ナージャの5つのがっこう』	キーハ・ナージャ／文 市原淳／絵 大日本図書
『オレはどうくつ探検家』	吉田 勝次／著 ポプラ社
『昆虫の体重測定』	吉谷 昭憲／文・絵 福音館書店
『にゅうどうぐも』	野坂 勇作／作 福音館書店
『きりみ』	長嶋 祐成／絵・文 河出書房新社
『クレヨンで描いたおいしい魚図鑑』	加藤 休ミ／著 晶文社

### ★いろいろな絵本たち

一見、なんにもない本だけど、読むと、手で蚊をたたくしかけ絵本になる『カどこいった？』は大人気でした。当日来てくれていた小さい女の子は、これと、『からっぽマヨネーズ』が好きなの、と教えてくれました。おいしそうな『めんたべよう』も、大人も子どもも好きになりますね。

字のない絵本『なみ』と同じ作者の、これまた字のない絵本『せん』は、とてもチャーミングな絵本です。『あむ』と『ねこです』は、犬と猫、それぞれの絵がひたすら印象的。

注目度では『あめだま』。去年は『天女銭湯』で注目だった、韓国の人気作家ペク・ヒナの絵本です。粘土で作った人形を、アニメーションのように撮影しているそうです。家族のつながりや、ちょっとした孤独がぐっときます。長谷川義史さんの大阪弁もいい感じ。

『おうさまがかえってくる 100びょうまえ!』	柏原 佳世子／作 えほんの杜
『いじわるちゃん』	たんじ あきこ／作・絵 岩崎書店
『めんたべよう!』	小西 英子／作 福音館書店
『あめだま』	ペク ヒナ／作 ブロンズ新社
『大名行列』	シゲリ カツヒコ／作 小学館
『せん』	スージー・リー／作 岩波書店
『くろいの』	田中 清代／作 偕成社
『カ どこいった?』	鈴木 のりたけ／作・絵 小学館
『れいぞうこのおくのおく』	うえだ しげこ／作・絵 教育画劇
『あむ』	小風 さち／作 山口マオ／絵 福音館書店
『ねこです。』	北村 裕花／作 講談社
『からっぽマヨネーズ』	ねじめ 正一／作 つちだのぶこ／絵 鈴木出版